

## 日本語 I

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

日本語学習の経験を有する者を対象とします。学習者は100字程度以上の漢字とひらがな、カタカナの知識を必要とします。日常生活に必要な会話と300字程度の漢字を使った会話内容の作文能力を目標とします。文法・会話、作文、聴解の授業は「日本語で話そう」を、読解の授業は「基本漢字500」を使います。

教科配分例：文法・会話(週7コマ、以下7)、漢字(1)

(教科書) ELEC 編 「日本語で話そう 1」 英語教育協議会, 1991  
ELEC 編 「日本語で話そう 2」 英語教育協議会, 1991  
ELEC 編 「日本語で話そう 3」 英語教育協議会, 1991  
加納千恵子他 「基本漢字500 Vol.1」 凡人社, 1989

## 日本語 II

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

中級レベルには達しないが、初級レベルではない学習者を対象にします。使用教材、単位数、学習内容は初級とほぼ同じですが、進む速度が初級より速くなります。また、ここでは、特に一般社会で用いられる文体、特にていねい体での会話表現について学習します。

教科配分例：文法・会話(7)、漢字(1)

(教科書) ELEC 編 「日本語で話そう 3」 英語教育協議会, 1991  
ELEC 編 「日本語で話そう 4」 英語教育協議会, 1992  
加納千恵子他 「基本漢字500 Vol.2」 凡人社, 1989

## 日本語 III

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

長文で敬語表現を含んだ複雑な構文を用い、自然な会話ができることを目標とします。読解と漢字1000字程度を用いた作文についても訓練します。

教科配分例：文法(2)、会話(2)、読解(2)、作文(1)、聴解(1)

(教科書) 各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示す。  
名古屋大学総合言語センター日本語科編 「現代日本語コース中級 I」 名古屋大学出版会, 1988 (会話・文法)  
富岡純子・高岡サク共著 日本語教育・教師協会 (Jaltta) 編 「日本語中級読解入門」 アルク, 1995 (読解)  
日本語教育・教師協会 (Jaltta) 編 「日本語中級読解・練習問題集」 アルク, 1992 (読解)

## 日本語 IV

春学期 及び 秋学期 各8単位 冬期集中 2単位

複雑な構文を駆使して、自然な会話ができることを目標とします。1500字程度の漢字を用いて新聞、雑誌、文芸評論等の読解を行います。また、作文の授業では自分の考えを適切に表現する訓練をします。

教科配分例：文法(2)、会話(2)、読解(2)、作文(1)、聴解(1)

(教科書) 各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示す。  
ドナルド・キーン著 「日本人の質問」 朝日選書 (読解)  
「日本語能力試験文法1・2級直前対策 ポイント整理日本語文法」 凡人社 (文法)  
「日本語能力試験 2級文法問題」 凡人社 (文法)  
「ロールプレイで学ぶ—会話(1)」 凡人社, 1994 (会話)

## 日本語 V

春学期 及び 秋学期 各5単位 冬期集中 2単位

日本語検定1級取得者またはそれと同等の日本語力をもつ学習者を対象にします。口頭での報告、討論、談話の練習を行います。また、映画、ドラマや新聞、雑誌、文芸評論等の教材を駆使し、(上級入門以上の)高度な聴解力・読解力を養成します。作文、小論等の書き方も指導します。

教科配分例：総合(5)

(教科書) 各担当教師が選んだ教材を使う。下に過去の使用教材の例を示します。  
森本哲郎著 「日本語表と裏」「日本語根ほり葉ほり」 新潮社 (読解)  
「日本語作文 I」 専門教育出版, 1995 (作文)  
芥川龍之介著 「鼻」(文学鑑賞) (読解)  
「ら抜きことば」 クローズアップ現代 (ビデオ) (総合)  
「男はつらいよ—寅次郎の縁談」 (映画) (総合)  
「北の国から—巣立ち」 (テレビドラマ) (総合)

## 日本語総合 1～5

(日本語V受講生のみ対象)

春学期 及び 秋学期 各2単位

別科生が本学学部開講の日本語の言語学系科目を履修し、単位を修得した場合には留学生別科の本科目へ振り替えすることができます。

## 日本語読解 1～4

(学部生のみ対象)

春学期 及び 秋学期 各2単位

この講義の目的は学部で学ぶ外国人留学生の不足した日本語力を補うものです。主に、日本語読解1、2では、日本語文法の再確認と、正確な日本語の運用能力の発達を目指します。そして、日本語読解3、4では新しい上級の文型を使用して作文をしたり、発話をしたりする能力を発達させます。

このクラスは、日本語読解1(春学期)→2(秋学期)→3(春学期)→4(秋学期)のように進行します。従って、日本語読解1と日本語読解3、日本語読解2と日本語読解4を同時に履修することはできません。履修時に確認してください。

(教科書) テキスト教材を適宜配布する  
(使用言語) 日本語  
(成績評価方法) 出席(70%)、試験(20%)、小テスト(10%)

## 日本語概論

春学期 及び 秋学期 各2単位

今仁 生美

この講義では、日本語の諸問題を、言語学の立場から、学生と教師が共に考え模索していくという方法をとります。したがって、いわゆる「正解」といったものは、この授業では得られません。この講義の目的は、問題解決に至る「試行錯誤」を通して、日本語のおもしろさを体得するというににあります。

春学期では、まず、古代日本語の成立と背景について論じた後、中性の日本語について概観していきます。また、漢字が成立した背景や世界の文字の成立も併せて紹介します。秋学期では、中世の日本語の音や表現を見ることから始め、現代の日本語の特徴(特に日本語に特有な言語特徴)を分析していきます。また、時間が許せば、日本語のひていひょうげにゃ様相表現にカンする問題についても学生と共に考えてみたいと思います。

授業中は、毎回、学生の意見を求めるので、単に座っているだけの学生には向きません。しかし、逆に、授業というものを楽しんでみたい学生、あるいは、考えるというのはどういうことかを体験してみたい学生は受講してみてください。

(講義内容)

- [春学期]
1. 古代日本語の成立と背景
  2. 世界の文字
  3. 中世の日本語
- [秋学期]
1. 中世の日本語
  2. 現代の日本語
  3. 現在の言語研究先端

(使用言語) 日本語  
(成績評価方法) レポート及び授業への参加度

## 日本の宗教

秋学期 2単位

大宮 有博

日本の宗教は理解しにくい。キャンパスで日本人学生に「あなたの宗教は何ですか」と聞いてみてください。おそらく、「私は仏教です(または、神道です)」と彼らのほとんどは答えるでしょう。一部の学生は自分は無宗教だと言うかもしれませんが、それはその人が完全に宗教から離れているということを意味していません。これは日本を理解するにあたって重要な現象です。仏教の教派や神道を知っているだけでは、日本の宗教を知ったことにはなりません。日本の文化や習慣、考え方で宗教に関係しているものにも目を向ける必要があります。

このクラスの目的は、日本の宗教と宗教的現象の基本的知識を得ることにあります。コース中、キャンパス内で日本人の学生にインタビューをする宿題や名古屋近郊の宗教施設に行くミニ旅行も考えています。

(講義内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における宗教の現状</li> <li>2. 日本における宗教の多元化</li> <li>3. 一般的な日本人の宗教性（占いや水子を例に）</li> <li>4. 会社の宗教</li> <li>5. 死後の世界</li> <li>6. 「きよめ」と「けがれ」</li> <li>7. 差別と宗教</li> <li>8. 天皇制と国家神道</li> <li>9. 神道</li> <li>10. 仏教</li> <li>11. キリスト教(キリシタン)</li> <li>12. キリスト教(プロテスタント)</li> </ol>
(教科書)	毎回、指定した英語の雑誌記事を読んでもくること。
(使用言語)	英語
(成績評価方法)	出席(20%)、リーディングアサインメント(20%)、レポート(60%)

## アジアのなかの日本 ―日中関係の歴史―

秋学期 2単位

中田 昭一

近年の日中関係は、かつての「日中友好」の時代とは異なって、相互嫌悪と敵意が高じつつあり、東アジアの中長期的な将来にとってかなり危険な状態にある。互いに最大の貿易相手国である事実を鑑みれば、日本には中国を敵にする余裕はなく、それは中国としても同様であろう。健全な日中関係の構築に向けて、冷静な議論が求められる。両国の間に横たわる最大の障害は歴史問題であるといえよう。本講義では、日中関係の歴史を振り返りつつ、日中が「歴史和解」を実現するための方策を検討してみたい。

(講義内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代の東アジア</li> <li>2. 遣唐使と日本国家</li> <li>3. モンゴル襲来と日本社会</li> <li>4. 明治以後におけるアジア観の変容</li> <li>5. 洋務運動と明治維新</li> <li>6. 日清戦争</li> <li>7. 第一次世界大戦と日中関係</li> <li>8. 「満州事変」</li> <li>9. 在華紡の発展</li> <li>10. 日中戦争</li> <li>11. 戦後の日中関係</li> <li>12. 日本人帰国者の現在</li> </ol>
(参考文献)	歴史教育者協議会『東アジア世界と日本』青木書店、2004年 尾形勇他『中国の歴史 12 日本にとって中国とはなにか』講談社、2005年
(使用言語)	日本語
(成績評価方法)	出席(80%)および課題レポート(20%)

## 日本の歴史

春学期 2単位

笠井 雅直

日本工業化の原点である明治維新期の経済的变化について明らかにしたい。

日本が、近代の世界市場に編入される、ペリー来航以降の政治的・経済的な変化の中から、日本のブルジョアジー、企業経営者たちが生み出される過程を、国際的影響と政府の政策に視点をおいてとりあげたい。

- (講義内容)
1. 世界市場と明治維新変革
  2. ペリー来航の意味、背景
  3. 自由貿易の強制＝不平等条約体制
  4. 政治的変動
  5. 倒幕派の成立と明治維新
  6. 幕府のフランスへの依存
  7. 統一国家の形成
  8. 岩倉使節団と工業化政策
  9. 大久保利通の工業化政策
  10. 政商の財閥への転化
  11. 在来産業の発展
  12. 日本の産業革命への足どり

(教科書) 石井 寛治 『大系日本の歴史 12 開国と維新』小学館ライブラリー 1993

(使用言語) 日本語

(成績評価方法) 出席(80%)および課題レポート(20%)

## 日本の経営

春学期 2単位

中村 義寿

本講義では、日本の歴史、社会、文化等との関連にも目を向けつつ、第二次世界大戦後の日本の経済発展を支えてきた「日本的経営」の諸特質について考察する。あわせて、バブル崩壊後の長期低経済成長下で、しかも昨今の国際化、少子・高齢化、情報化などの急速な進展下でこの伝統的な経営にどのような変化がみられるかを説明するとともに、これからの国際社会の中で日本の企業に求められる経営方式としての、「新」日本的経営について共に考えていきたい。

- (講義概要)
1. 日本の企業システム
    - ① 資金調達と所有
    - ② 雇用関係
    - ③ 企業間取引
    - ④ 政府と企業
    - ⑤ 労使関係
  2. 日本の企業行動
    - ① 意志決定
    - ② 経営理念・目標
    - ③ 経営戦略
  3. 環境変動下の日本的経営

(教科書) テキスト教材を適宜配布する。

(参考書) Cheng, J.L.C.; Peterson, R.B. (eds.), *Advances in international comparative management*, JAI

Press Inc, 13 vols. 1984-2000.

(使用言語) 日本語  
(成績評価方法) 学期末レポート

## 日本の経営

秋学期 2単位

関下 稔

第二次大戦後、我が国企業は敗戦から見事立ち直り、高度成長を実現する中で大きく成長してきた。なかでも日本企業独特の生産方法と経営様式は世界の注目を浴びてきた。しかしグローバル化の進展の下で、日本企業は今大きく変わろうとしている。まず、「世界の工場」中国の台頭は日本企業の生産基盤を奪い、中国をはじめとするアジアへの生産活動の移転を進めている。その結果、日本国内での「空洞化」が生じている。次に「IT革命」に象徴されるサービス経済化の進展は、金融・証券ブームと相まって、M&Aの活発化をもたらしている。さらに高齢化社会の到来は大規模な企業のリストラを進めている。これらのことは日本企業の経営にも一大変革を促している。最後にこれらの最新の状況を踏まえて、日本の企業経営の将来を展望する。

参加者は最後の2週において、簡単な発表報告をおこない、さらに終了時にはレポートを提出しなければならない。

- (講義内容)
1. 序論:日本の企業経営を取り巻く環境
  2. 戦後の日本経済の発展と企業経営
  3. 日本の企業経営の特徴Ⅰ:終身雇用制と年功序列賃金体系
  4. 日本の企業経営の特徴Ⅱ:OJT、品質管理、ジョブローテーション
  5. 日本の企業経営の特徴Ⅲ:下請系列化と企業グループ
  6. グローバル化の進展と日本企業の国際化
  7. 「東アジア共同体」構想
  8. サービス経済化とM&A
  9. 高齢化社会の到来と企業再編
  11. 結び:日本の企業経営の将来

(教科書) プリントを配布する

(参考図書) 関下稔『多国籍企業の海外子会社と企業間提携』文眞堂、2006年

(使用言語) 英語

(成績評価) 出席40%、報告30%、レポート30%

## 日本の経済

秋学期 2単位

水田 健一 大石 邦弘

1990年代初頭のバブル経済崩壊以降、日本は約10年にも及ぶ経済低迷のなかでもがき苦しんできた。しかしながら、近年、日本経済は景気拡大を続け、ようやく回復の兆しを見せている。

この講義では、日本経済がこれまで歩んできた歴史と将来への展望を考えることを目的とする。そこで扱われる話題は、現在の日本で家計・企業・政府が直面している問題のほか第二次世界大戦後の高度経済成長期の状況などである。

時折、必要に応じて基本的な経済学の理論や概念について担当講師が説明を行うが、経済学に関する予備知識がない参加者にとっても教材を理解しやすいように配慮する。

- (講義内容) 1. 序論

- 2. マクロ経済学の基本概念
  - 3. 戦後日本経済の発展過程
  - 4. バブル経済と失われた十年
  - 5. 各論：日本の労働市場と家計経済
  - 6. 各論：日本の企業活動と産業構造
  - 7. 各論：日本の金融市場
  - 8. 各論：高齢化社会と財政
- (成績評価法) 授業への参加度(出席状況など) 60%  
日本の経済社会に関するターム・ペーパーの提出またはプレゼンテーション 40%
- (教科書) プリントやパワーポイントのスライドのコピーを配布する
- (参考図書) Ito, T. *The Japanese Economy*, MIT Press, 1992.  
Flath, D. *The Japanese Economy*, 2<sup>nd</sup> ed., Oxford University Press, 2005.  
Nariai, O. *Exploring the Japanese Economy*, Reitaku University Press, 2005.  
Kaizuka, K., et al. *Dictionary of the Japanese Economy*, Nihon Keizai Shimbunsha, 1996.  
*White Paper on the Japanese Economy and Public Finance*, Printing Bureau of Ministry of Finance, 2001.  
*Japan Economic Almanac 2001*, Nihon Keizai Shimbunsha, 2001.
- (使用言語) 主として英語

## 日本の社会 — 日本人の社会行動 —

春学期 及び 秋学期 各2単位

小松 照幸

「日本人の社会行動」というテーマの学習は、なぜ必要でどんな重要性があるのでしょうか。それは、自分自身を知り日本の社会と文化に対する(深い)教養を身につけるためです。そして、そのことにより諸外国の文化や社会を見る目を養うためでもあります。この学習にはまず、われわれの住む日本という社会と文化が、どのような歴史を経て形成され現在に至ったかを知る必要があります。次に、現代の社会と文化はどのような状況にあるかを深く認識する必要もあります。こうした学習により、必要な基礎的知識と教養が養われるからです。人間の社会的行動は、国や文化が違っていても、多くの「共通性」があることは当然のことです。しかし同時にそれぞれ独自の文化を創造し、特有の文化的行動が在ります。いわゆる「らしさ」です。そのため、人間の社会的行動を理解するには広汎な知識と経験が必要ですが、広い意味の人文・社会科学からの学際的(いろいろな学問)なアプローチが必要です。

そこでこの講義では、時間的制約があるなかで学習目標を「日本人の考え方と行動に見られる文化的特性」に設定し、以下の4つの学習課題を掲げます。

1. 現代日本の社会システム：その特徴について  
日本的な社会システムの美点と欠点は何であるのか？
2. 日本人の伝統的な考え方：日本人の社会心理と価値観  
伝統的思考とは、何であるのか？ そして、それはどう変化しているのか？
3. 日本的思考と行動の文化様式：その美点と欠点について  
戦後、日本人はどのような社会を創り上げてきたのか？ そしていま、どのような社会と文化を創ろうとしているのか？
4. 日本人と日本社会：その望ましい方向とは？  
個人と集団をとりまくさまざまな病理現象のなかで、緊急を要する重要課題は何か？

(履修上の注意) 受講生に要求される宿題は、以下の二つです。

1. 授業ノートと小テストの準備  
毎週の授業準備に必要な予習・復習をきっちり行うこと。そして自分自身のための授業ノートを作成し、随時行われる小テストの準備を怠らないこと。小テストの学習に必要な教材、資料としては次のものを利用すること。  
(a) 図書館にある「指定図書」を必ず読み、授業準備と学習資料の整理・作成を行うこと。

(b) 授業で配布されたプリントをしっかりと読んで理解し、どう理解したかを自分の言葉で記録すること。

(c) 「自由研究」の一環として毎日、新聞記事を読み分析を行い、自分の言葉で分析内容を記録すること。

2. 自由研究ノート：(論文形式)の作成と提出

上記の宿題「授業ノート作成」は、この講義の基礎知識の理解度をチェックするためですが、それと同時に自主的な学習と研究を行い、その成果を小論文の形式で毎月の末に提出すること。自主研究に必要な資料・教材として新聞・雑誌・テレビ番組・紀要・図書資料・インターネット情報や個人・団体へのインタビューなどを利用すること。

(教材) 主として次の教材・資料を使用すること。

1. 図書館の指定参考図書
2. 授業での配布資料・プリント
3. 新聞
4. インターネット情報

(評価方法) 成績は以下の三つの重要項目で、総合評価を行う。

1. 授業ノートと小テスト (40%)
2. 自由研究ノート(論文) (40%)
3. (1)と(2)の再提出 (20-40%)

受講生で成績不良のものは、内容を書き改め(再)提出する機会を与える。

(講義計画)

1. 授業案内  
「現代の社会システムと社会心理」
2. 関連課題について
3. 伝統的な考え方  
「日本的思考と行動様式」
4. 関連課題について
5. 今日の社会システム  
「システムの問題点」
6. 関連課題
7. 関連課題
8. 日本人の社会行動の観察
9. 関連課題
10. 関連課題
11. 研究発表 #1
12. 研究発表 #2
13. 最終授業

(使用言語) 春学期は日本語、秋学期は英語

## 日本の自然環境

秋学期 2単位

石川 輝海

日本列島は北西太平洋を縁取る弧状列島群の一部を構成し、その列島群はアリューシャン列島からフィリピンまで連なっている。日本列島は弓型を示す。島の配列から見ると日本列島は千島弧、本州弧、琉球弧、及び伊豆-小笠原-マリアナ弧からなる4つの島弧から構成されている。島の配置と海底地形を考慮すると日本列島は東日本島弧群と西日本島弧群の2つから成り立っているとみることができる。本州は単一の島弧であるが、2つの主要な島弧系が接合した所と考えられる。

島弧の特徴は地震活動である。地震はどこにでも発生するわけではなく、環太平洋島弧群、アルプス、ヒマラヤ造山帯、中央海嶺系に集中する。島弧系に発生する地震と中央海嶺系に発生する地震には大きな違いがある。それは一つは震源の深さである。深発地震は島弧地域のみで発生する。深発地震の震源は大洋地域から大陸方面に傾斜する面上で発生する。火山の分布は震源の分布とよく似ている。火山は東日本弧と西日本弧に沿って集中している。火山と地震は共に島弧系に存在するがその分布の位置は異なる。大部分の震源は島弧の大洋側に集中するが火山は大洋側には存在しない。

日本列島は北緯31度から41度に位置し、北端と南端では気候が著しく異なる。その大部分の地域は温帯に入り、気候的エネルギーは多く、植物の成長力は大きい。複雑な起伏と著しい高度差は地域的な気候の違いを大きくしている。

- (講義内容)
1. 日本列島の概観
  2. 日本列島とプレートテクトニクス
  3. 日本の地質
  4. 日本の地震
  5. 日本の火山
  6. 富士山
  7. 中部山岳地帯
  8. 日本の気候
  9. 台風
  10. 日本列島の地質構造発達史

(教科書) テキスト教材を適宜配布する。

- (参考書)
- 湊正雄・井尻正二 「日本列島」 岩波新書, 1958
  - 中野尊正・小林国夫 「日本の自然」 岩波新書, 1959
  - 藤田和夫 「変動する日本列島」 岩波新書, 1985
  - 平朝彦 「日本列島の誕生」 岩波新書, 1990
  - 貝塚夾平 「日本の地形」 岩波新書, 1977

(使用言語) 日本語

(成績評価方法) 試験による。

## 日本事情演習 ―アジアの中の日本文化と芸術―

春学期 及び 秋学期 各 2 単位

田口 知洋

アジア大陸の西東端に位置する日本は、氷河期の終焉とともにユーラシア大陸から強引にひき離され孤立化し、細長い弓形の国土となった。その形は、広大なアジア大陸を映しこむ大きな凹面鏡の断面図のようでもあり、電波を受けとめ情報を得る巨大なパラボラアンテナのようでもある。アジア大陸から様々な文化を受容し、発展させて来た日本の文化史をふり返ると、日本の国土の独特な形態は、日本文化の本質をも表わしていると言える。

一方近代においては、技術革新と、更なる海洋技術の発展に伴い極東日本はアメリカと海を挟んだ隣国となった。永い歴史の中で日本は初めて西洋文明と直接交渉を持つようになったのである。かくして日本は、どのアジア諸国よりも素早く西洋文明を取り込み短期間で文化史上画期的な変節をとげた。まさに文明や文化は伝播と交流によって発展し、変節するものである。

この講義では、アジア文化の相互交流と西洋文明の影響という視点を根拠に、歴史上輝きを放ち続ける芸術文化の様々な主題について解説する。文化交流という視点を縦糸に、日本にかかわり深い芸術文化の主題を横糸にして、リバーシブルで鮮明な印象を喚起するタピストリーを織りあげることが狙いである。その一面には、

日本文化史にかかわり深いアジア像を描き、その裏面にはアジアの中の日本文化地図を明確に示していきたい。

以下に示す、項目の中から受講生の関心の強いものを優先して取り上げて、講義を行う。

- (講義内容)
1. 日本の文化と芸術;伝統文化と現代文化の混在(1回)  
— 日本研究の多様な視点
  2. 日本文化の起源Ⅰ;呪術文化と縄文土器(2回)  
— 古代文明の発祥と日本文化の成立
  3. 日本文化の起源Ⅱ;日本語・日本食・神話(2回)  
— アジアと日本の深いかかわり
  4. 仏教の成立と伝播;仏教美術の興りと発展(1回)  
— インド文化の影響
  5. 日本文化の死生観;神道・仏教・儒教・道教・禅・武士道(2回)  
— 日本文化の理想と宗教
  6. 中国・朝鮮文化の吸収と国風文化;平仮名・片仮名・和歌・書・絵画・彫刻(2回)  
— 東アジア文化圏の中の日本文化
  7. 武士の文化の成立と発展;絵巻物語・能・水墨画(2回)  
— 中世日本の文化—
  8. 南蛮文化の吸収;茶道芸術・キリスト教(1回)  
— 大航海時代の日本文化—
  9. 江戸の町人文化;浮世絵・歌舞伎・人形浄瑠璃(2回)  
— 近世日本・江戸文化の花—
  10. 映画に見る近、現代の日本;溝口健二、黒沢明、今村昌平の到達点(2回)  
— 近代文明の吸収—
- (教材) 図録、ビデオ、スライドなど
- (使用言語) 春学期は英語、秋学期は日本語
- (成績評価) 出席率、課題、レポートによる

スポーツ	—バドミントン—
------	----------

春学期	2単位
-----	-----

坪田 暢允
-------

心身ともに健康に生きていくための実践方法を、発育発達の完成期にありしかも感性豊かな大学期において身につけることは必要不可欠なことである。

これらの種目は生涯にわたって友人や家族と楽しめるようなスポーツ種目である。積極的に取り組んでほしい。

**【学習到達目標】**

目的は次の3点に要約される。

①運動・スポーツの合理的な実践を通して、心身の調和のとれた発達と運動技能の習得をはかる。

- ②運動・スポーツを通してその楽しさや有意義さを体験し、自主的に運動する習慣を身につける。  
 ③運動・スポーツにおける競争や協同の経験を通して、フェアプレーの精神を身につける。

【履修上の注意】

種目：バドミントン

身体的に他の学生と一緒に運動することが困難な学生はガイダンス時に担当教員と相談すること。

【講義・テーマ】

- 1 回 用具の説明と基本動作(グリップ・フライトについて)
- 2 回 ハイ・クリヤー、ドライブ、ドリブン・クリヤーの練習
- 3 回 ドライブ、スマッシュ、ヘアピンの練習
- 4 回 ハイ・クリヤー、スマッシュ、ドロップ・ショットの練習
- 5 回 基本技術のチェックとコート半分での乱打
- 6 回 フットワーク(ドロップショットとネットウライト組合せ、スマッシュ・ネットフライト・クリヤー組合せ)
- 7 回サーブ、レシーブ、ヘッドワークについて
- 8 回 ダブルスゲームの説明
- 9 回 ダブルスゲーム
- 10 回ダブルスゲーム戦術(サイド・バイ・サイド)
- 11 回ダブルスゲーム戦術(トップ・アンド・バック)
- 12 回ダブルスゲーム戦術(ダイアゴナル)
- 13 回テスト
- 14 回期末試験期間
- 15 回期末試験期間

(教科書) テキスト教材を適宜配布する。

(使用言語) 英語

(成績評価方法) 授業への参加度とレポート

<b>空手道 I・II</b>
春学期 及び 秋学期      各2単位 <span style="float: right;">出口 善治</span>

日本の伝統文化である空手道について実技を中心に理解します。空手道は中国から沖縄へ伝来して達した武器を持たず、手足による突き・蹴り・受けを基本とする武術です。

授業では、空手道の礼節をはじめとして基本・形・組手を学び、暴漢などに対応できるような技術を身に付けます。初心者が楽しく、分かりやすく体得できるように指導しますが、授業への出席と十分な復習が必要となります。帰国後も護身術として活用出来るとともに本人の頑張り次第では最終授業での「級」の資格取得も可能となります。また、最終授業には古武道や居合道なども体験出来るよう指導します。

- (講義内容)
- 1-2. 礼儀、心得、初歩動作、模範演技
  - 3-4. 基本技術の練習(突き、打ち、当て、蹴り、受け、体さばき)
  5. 形(基本)
  6. 形(分解)
  - 7-8. 組手(対人技術の練習)
  - 9-10. 護身法
  11. 総合のまとめ
  12. 総合のまとめ・演武
  13. 実技試験

(教科書) テキスト教材を適宜配布する

(使用言語) 日本語

(服装) 運動の出来る服装

(成績評価) 授業への参加度(80%)と実技試験(20%)

## 日本事情総合 1～5

(日本語Ⅳ、日本語Ⅴ受講生のみ対象)

春学期 及び 秋学期 各2単位

別科生が本学学部開講の人文・社会系科目を履修し、単位を修得した場合には留学生別科の本科目へ振り替えすることが出来ます。

日本語Ⅳ・Ⅴを履修している学生は、学部担当教員の許可を得た上で、本制度を利用できる。

## インターンシップ

春学期後 及び 冬季集中講義後 各2単位

留学生別科で学ぶ外国人留学生を対象に、日本企業などでの研修を目的とする「インターンシップ」が開かれています。研修期間中は講義、実習、見学及び社員との交流などが予定されています。参加学生は日常会話程度の日本語能力が必要です。実施期間は春学期講義後の7月と冬季集中講義後の2月に、2週間実施されます。なお、受講生は、その仕事が基本的に要求する条件を満たさなくてはなりません。